

窪田委員（自民議連）

平成30年3月8日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問） 広島叡智学園の入学者選抜について

先日の本会議では、中学校の入学者選抜においては英語力の検査を行わない、という教育長の答弁があったが、英語漬けの環境を想像すると、帰国子女や外国人の親を持つ子供など、ある程度英語に触れてきている子供を中心に応募者が集まるのではないかと思う。

そういった意味で、結果的に、入学者選抜の時点で限られた応募者となってしまうのではないかと懸念するが、入学時の選抜の考え方について、改めて教育長の認識を伺う。

（答）

広島叡智学園は、将来、社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても活躍できる人材の育成を目指し、「高い語学力」だけでなく、「知識・技能の深い理解」、「創造的・批判的思考力」、「協働する力」、「やり抜く力・自信」の5つの力を育成することとしております。

こうしたことから、来年度実施いたします広島叡智学園の入学者選抜におきましては、英語力は問わないこととし、この5つの力の基となる主体的に学びたいという意欲や思考力、他者と協働する力など、面接や2泊3日の合宿などを通してみてまいりたいと考えております。